

中国 吉林省延吉 つれづれ日記(思い出)

中村

彰

中国・吉林省延辺朝鮮族自治州延吉市。中国に住む朝鮮族の町です。

彼女は、15年近く日本で仕事をしています。

「私のふるさと、両親が住む町に、日本人を連れて行くのは、あなたが初めて」

ご両親に挨拶するのが、この旅のひとつです。

彼女が生まれ育ち、30代半ばまで暮らしてきた町を知りたい、知ってほしい、2人の思いが重なった旅です。

☆☆☆☆☆

ご両親は歌と踊りが大好き。

ご両親がリーダーで、踊りのグループができています。

毎夜、近所の公園で、踊られています。

ご両親は小学校の同窓生。

なかよしカップルです。

彼女も、踊りのなかに入り、ご満悦。

天真らんまんな彼女。

こんな彼女をみると、うれしくなります。

ご両親も、自慢の娘をダンスのなかに巻き込みます。

お父さん、娘とダンスするとき、うれしそう。

彼女が高校生のところからだそうです。

踊りの輪の近所の人たち。

彼女を昔からから、よく知っているので、久しぶ

りに帰国した彼女と、懐かしく、おしゃべり。

踊りの場にいた近所の人たちが、

彼女のご両親に、私のことを

「娘さんの夫さん？」

と聞いたそうです。

彼女と私が、寄り添っている姿をみて、そのように理解したらしい。

☆☆☆☆☆

ひかりが煌々とした大都会でした。

ネオン

漢字より、ハングル文字が圧倒的に多く、中国のほかの地域の人たち、韓国人が観光に訪れるとか。

ネオンだけでなく、川や橋、建物、公園がひかりの装飾でいっぱい。

☆☆☆☆☆

松茸、トウモロコシが、すごく、美味しい。

トウモロコシの品種が違う。

コメと餅ゴメの違いのような感じ。

まったりとした味でし

た。



陸続きの国境の怖さを実感。

北朝鮮から国境を越えて中国に逃げてきた人。

中国から川の対岸に見える北朝鮮の貧しさ。

川が国境？

北朝鮮から中国に、川の国境を越えて密入国することを防ぐために、中が国境の川沿って張り巡らせた鉄柵。

川沿いに延々と続く。

かつてはなかったとか。

国境地帯は農村が多い。

農村

トウモロコシ畑が多いと
漢民族の農村、コメ作は
朝鮮族の農村。

防川「一眼望三国」

ロシア、中国、北朝鮮
3か国の国境。

☆☆☆☆☆

中国人、朝鮮人、日本人
を巻き込んだ満州国の悲

劇を目の当たりに。

開拓団の日本人が敗戦で逃げるために壊した橋の残骸が残っています。

☆☆☆☆☆

国境地帯への旅。

クルマで、長距離を走破。

彼女と2人でマッサージ店へ。

疲れたからだをほぐしてもらいました。

日本でも、ときどき、2人で、マッサージ店に行きます。

☆☆☆☆☆

3日目。

市内観光のつもりでしたが、

ご両親の家でくつろぎタイム。

彼女が使っていたベッドで、横になっています。

午後にショッピング。

彼女の友人が働いているデパートの男性用ズボンの店で、ズボンを買ってくれました。

彼女の友人に挨拶。

土産用に、松茸を買ってくれました。

☆☆☆☆☆

9月4日、帰る予定の日。

台風21号のため飛行機✈️が運休。

さらに、関西空港の被害が甚大で復旧がいつなのか不明のため、

「9月9日19時5分 延吉空港 発で上海に移動。

10日 上海空港発⇒岡山空港着」に変更しました。

☆☆☆☆☆

9月4日は、お母さんの誕生日。

みんな集まり、お祝いパーティーがあり、私も参加しました。

☆☆☆☆☆

彼女の家で、くつろいでます。

午後には、彼女が購入した新しい家を見に行きました。

内装はまだ。

今回の旅。

内装をどうするか、材料を整えるのが、彼女の本来の目的です。

私は、それに同伴したわけです。

私が一足早く帰り、彼女は本格的に、あちこち、

手配していくことになります。

☆☆☆☆☆☆

ホテル滞在の日々、早朝に、彼女はやってきて、ホテルモーニングから、1日が始まりました。

それも、うれしかったけれど、彼女は朝早くから家を出てホテルに移動してくれていたわけで、睡眠不足になってないかと、気になってました。

ホテル滞在だったこれまでと異なり、4日からは、彼女の家で過ごしています。

仕事も、家庭でも、良く働く彼女。

仕事の働きぶりは知っていたが、家庭のなかでも、食事、洗濯、部屋の片づけ、気づいたことを次々と、こなしている。

彼女がつくる家庭料理。私の好みの味を知ってくれています。

どうしても辛さが基本の朝鮮料理ですが、工夫してくれています。

朝、目覚めたら、彼女が「おはよう。眠れた？」しあわせを噛み締めました。

彼女とご両親の声に包まれ、受け入れてもらえています。

朝から食事の準備をする声と音が聞こえるなかで、まどろんでいます。うれしいです。

彼女とふたりきりなら、台所に立ち、一緒に食事の準備を始めたいな、と思いました。

シャワーの使い方を説明しながら、「両親がそばにいたのでしたくない」といいつつも、結局は、いつものように、洗ってくれました。

今日は、彼女は、一人で、お出かけ。

お父さんとふたりで、朝の散歩。

ご両親と私だけの昼食タイム。

言葉が通じないなか、工夫して、意思疎通を図ってます。

午後には、お母さんとお出かけ。

☆☆☆☆☆☆

朝、キッチンから、まな板で、トントンと野菜をきざむ音がします。

彼女が朝食の準備をして

くれています。

しあわせ。



彼女のお母さん

「日本は台風や地震で大変ですね。

中国と一緒に暮らしましょう！」

と誘ってくれました。

彼女が出かけたとき、言葉が通じないけど、身振り、微笑みで意思疎通、ご両親とも、うちとけ、突然、舞い込んだ私を受け入れてくれてます。



彼女の娘が、

この前、帰国した折、
祖父母へのプレゼント

として、

祖父母が住んでいる家
に、インターネット環境
を整え、テレビの衛星放
送で、韓国と日本の放送
を視聴できるようにしま
した。

ご両親、韓国の放送を楽
しんでいる。

彼女も、彼女の娘も、ご
両親も、心優しい、ステ
キな人たちだ。

☆☆☆☆☆☆

9月10日。帰国の日。
彼女のお母さんは、糖尿
の状況が悪化して、病院
で検査となりました。

そんな病状にもかかわら
ず、いろいろ配慮してい
ただき、

彼女と彼女の家族と共に
過ごした日々、気持ち
落ちつき、また、楽しか
ったです。

☆☆☆☆☆☆

「戦争と暴力はきらい」

DV防止に関わる私に好

感を持ってくれたのが、
彼女とつながるきっかけ。
け。

彼女が友人に私のことを
紹介するのを聞いて、深
く繋がった、そもそもの
ポイントを、改めて認
識。

彼女は、テレビ局に勤務
し、そこで出会った男性
と結婚。

しかし、夫のDVが原因
で離婚した彼女。

職を失い、大病を乗り越
えた後、彼女は、幼い娘
を両親に預けて、来日
し、日本で働くことにな

ります。

銭湯のアカスリ係から始まり、私と出会う、少し前に韓国エステで働きだしました。

15年が経ちます。

彼女の稼ぎで、両親、娘、姪を養っています。苦労が続いています。

今回、テレビ局時代の取引関係にあった方に会い、今回の旅のドライバー、案内役をしてくれました。

ずいぶん前に仕事で出会った方が、今回、仕事を休んでドライバーをし、宿や食事の予約をして、

ご馳走になりました。
彼女のテレビ局時代の仕事ぶりに感心しました。
こんな深い信頼関係を、
テレビ局時代に作ったの
ですから。

あのままテレビ局勤務が
続けられていたら、よか
ったのにね。
私との出会いはなかった
けれど。